高祖道元禅師七五〇回大遠忌法要
大本山永平寺に詣でて

小白浜　山崎　てる

修行道場での第一夜は、三時の起床から始まりました。樹齢数百年という老杉に囲まれた七堂伽藍のたたずまい。その一番奥の本堂において営まれる朝のお勤めに参加するためです。

雲水さん（修行僧）の案内により、黒光りする長い長い廊下そして階段。私ども足の悪い者には特別のエレベーター使用が配慮されました。

広大な堂内は灯明がかすかにゆらぎ厳かな雰囲気に身の引き締まる思いでした。全国各地から集まった老若男女の檀信徒が続々と入堂し、緊張と静寂が暫く続きました。

私の生涯の宝物として

やがて和尚様方の入堂の列が延々と続き正面の須彌檀の前に一同正座した様子は荘厳そのものでした。

読経が始まりその朗々とした響きは、実に荘厳で低音ながら、二百人からの僧侶の声量は、幽谷なる深山にこだまするかの様に思われました。

静かに目を閉じ、合掌すると身も心も吸い込まれる様な、未だかつて味わった事のない感動に感極まってしまいました。

参拝者一人一人の名前が読み上げられ、なお続く読経の中、須彌檀にて焼香が続き、一連のお勤めが終わり、静かに退堂を促されました。窓外に眼をやるとようやく空が白みがかっていました。

あの時の読経の「響き」は今尚、耳元に鮮明に残っており、それは私の生涯の宝物として、いつ迄も脳裏に刻み込まれている事でしょう。

「ご本山参り」の念願は、私どもの永年の夢でした。しかし今回の企画には、高齢者であり、障害者と云うことで参加をためらったのでしたが、俊禅和尚様が「大丈夫ですよ、このような機会に恵まれる事は二度とありませんよ」と勧めて下さったので、意を決してお世話いただく事と致しました。

まさに感謝の旅でした

高祖道元禅師七五〇回大遠忌と云う記念すべき年に巡り逢え、夢が叶えられた事は、大変ありがたく幸せな事でした。

三泊四日の旅程は好天に恵まれ、一人の事故者もなく、楽しく無事終える事が出来ました。それは、一行五十八名の団長さんであられた、俊禅和尚様の素晴しい企画と細やかな心配りの賜だったと思います。

先祖への感謝の念、今は亡き父母へ、そして同行しお世話いただいた方々への感謝と、私にとってはまさに感謝の旅でした。

また先祖があって、現在の私どもそして、子や孫と平穏に暮らす事の出来る幸せを思う時、私ども戦争体験者世代の者として、次世代のすべての人々に「平和の尊さ」を語り継ぐべく使命を強く感じる旅でもありました。

旅程の心に残ったごく一部を、思いのまま拙い文にしたためました。

秋ふかし
能登路の旅の共白髪
てる